

い
ず
み
さ
の
教
育



問合先
学校教育課

「道徳教育について」

現行の小・中学校学習指導要領総則には、道徳教育の目標について「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」と明記されています。

また、「学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（道徳科）を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」とも記されています。

小学校は平成30年度に、中学校は平成31年度（令和元年度）に道徳が教科化され、「特別の教科 道徳」（道徳科）が始まりました。学校の教育活動全体で行うのが「道徳教育」であり、授業として実施するのが「道徳科」です。現在は主に教科書を使用しながら、小学1年生は年間34時間、小学2年生は中学3年生までは年間35時間の道徳科の授業を行っています。

先述の道徳教育の目標を達成するために「考え、議論する道徳」というキーワードがあります。答えが一つではない道徳的な課題に対して、多様な価値観に触れながら、子どもたちが

自分自身の問題と捉え、自身と向き合うことが道徳性を養うことにつながっていきます。決して大人の価値観を押し付けるのではなく、それぞれの発達段階に応じて、子どもたちの中に既に育ちつつあるものに気付かせることが大切です。

本来であれば、保護者や地域のみなさんに積極的に道徳科の授業を公開することが望ましいとされていますが、コロナ禍においてはそれも難しい状況にあります。

しかし、子どもたちの道徳性あふれる豊かな心を育むには、家庭や地域との連携が欠かせません。場合によっては、地域を支えるみなさんのお話や地域の伝統文化などが子どもへの学びを深めることもあります。

市では平成27年に道徳教育振興条例を施行し、リーフレットも発行しています。ぜひ子どもたちの心の教育に関心を持っていただくとともに、引き続き、学校教育へのご理解ご協力をお願いいたします。



学校園紹介



修学旅行での平和学習
～長南小学校～

6年生は、修学旅行でヒロシマを訪れました。たっぷり時間をかけて平和記念公園内の碑と資料館の見学をし、被爆体験証言者からのききとりを行うことで、これまでのバーチャル（仮想的）からリアル（現実的）なものへと学びを確実にしました。



「大切な人が亡くなった悲しみと生き延びた者の苦しみには終わりがありません。」（2021年平和記念式典での小学生による平和への誓いより）



戦争で無差別に命を奪うことは、最大の人権侵害であると学んだ意味をここで改めて考えました。規模の大小にかかわらず、他人への理不尽な介入や差別を許さない気持ち、自他とも命と尊厳、そしてそれぞれの成長を尊重できる心を大きく大切に育てたいと、考えました。

多感な時期である成長過程のこの時に、信頼できる友だちとともに平和について、命について、人間らしく生きることについてなど、学べるこの機会は貴重です。ヒロシマからのメッセージをぜひ、しっかりと受け止め、感じ、伝えることのできる人に成長してほしいと思いました。



ボランティア活動をすすめよう！
～末広小学校～

末広小学校では、自分たちの学校をより良くするために、代表委員会（児童会）や高学年が中心となって、ボランティア活動に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの学校行事が制限される中、学校の新たな取組として位置づいています。

【友情の花壇ボランティア】

すこやかネットさの（佐野中学校区地域教育協議会）の活動と連携して、正門横の花壇に約300株のパンジーを植える活動に取り組みました。代表委員会（児童会）で、花壇の愛称やパンジーを植えるレイアウトを考えました。末広小学校の教育目標である「安心・安全、笑顔」を達成できるように、子どもたちがもっと仲良くなることを願って、花壇の愛称を「友情の花壇」とし、パンジーで「友」・「情」の花文字を作ることになりました。あわせて4～6年生にパンジーを植えるボランティアを募ることにしました。



10月18日(月)から1週間、昼休みの時間帯に、ボランティアに参加した子どもたちと学校にお招きした地域のみなさんと一緒にパンジーを植えました。植えた後のパンジーの水やりや草取りなどのお世話は、代表委員会（児童会）と環境委員会の子もたちが引き継いで行っています。今日もカラフルなパンジーが明るく「友情」の文字を浮かび上がらせてくれています。